

観世流

緑泉会

令和二年 第四回例会

十二月十九日(土)

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂

能 Noh 玉鬘 Tamakazura 津村 禮次郎

舞囃子 Maibayashi 羽衣 Hagoromo 墨 敬子

狂言 Kyogen 雁大名 Gandainyou 石田 幸雄

能 Noh 天鼓 Tenko 新井 麻衣子



【狂言】(撮影 吉越 研)



小金井新能

【天鼓】(撮影 宮崎 光毅)

お客様各位

新型コロナウイルス感染症は、未だ楽観を許さない状況ではありますが、防疫体制も整いつつあり、緑泉会の第四回例会を開催することとなりました。お客様に様々な制約をお願いする中、大変心苦しくは存じますが、皆様おひとりおひとりのご来場が今の能会の運営を支えています。七百年近い伝統を次世代に受け渡すための一助をお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」、ならびに公益社団法人全国公立文化施設協会の「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に基づいて公演を開催します。

【お客様へのお願い】

- ・ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- ・チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先(メールアドレス、または電話番号)をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に記帳をお願い致します。
- ※万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- ・当日の社会状況により、使用可能な座席の指定ならびに館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従って下さい。
- ・上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音が障りになる場合がございますが、ご了承下さい。
- ・上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

能 玉 鬘 津村 禮次郎

玉鬘内侍 里女 旗竹野口 琢弘 門前者 中村 修一

大鼓 佃 良太郎 小鼓 鶴澤 洋太郎 笛 一噌 庸二

後見 坂 真太郎 觀世 喜正

奥川 恒治 中所 宜夫 中森 貫太 桑田 貴志

舞囃子 羽衣 墨 敬子

大鼓 佃 良太郎 小鼓 大山 容子 太鼓 小寺 真佐人 笛 杉 信太郎

藤村 答 永島 充 鈴木 啓吾 吉留 敬高

狂言 雁大名 大名 石田 幸雄

太郎冠者 岡 聡史 雁屋 月崎 晴夫

後見 中村 修一

仕舞 船辨慶 小唄 觀世 喜正

桑田 貴志 中森 貫太 中所 宜夫 鈴木 啓吾

能 天 鼓 新井 麻衣子

王伯 勅使 福王 和幸 勅使ノ從者 野村 太一郎

後見 河井 美紀 坂 真太郎

大鼓 亀井 洋佑 小鼓 飯田 清一 笛 槻宅 聡

附祝言

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事がございますのでご了承下さい。

【終了予定四時三〇分】

能：玉鬘 (たまかすら)

源氏物語の作中人物である玉鬘は、光源氏のライバルである頭の中將と夕顔の間に出来た子で、数奇な運命とその美貌による騒動に翻弄された半生を送る。

初瀬詣に訪れた諸国一見の僧(ワキ)が、秋の山川に翻弄されつつ小舟を操る女(前シテ)と出会い、二本杉に導かれ、当地ゆかりの玉鬘の内侍の物語を聞く。夕顔の死後乳母に連れられて筑紫で成人し、煩わしい求婚騒動から逃れて上京、初瀬詣の折にこの杉の下で夕顔の侍女だった右近と再会したという。女は僧に供養を頼むが、自分が玉鬘であると名乗る間もなく姿を消した。(中人)

僧は、門前の者(間狂言)から同様の物語を聞く。僧の甲いによって玉鬘内侍(後シテ)は在りし日の姿で現れ、多くの男に思いを寄せられて苦しんだ半生の苦悩を訴えたが、最後にはその妄執を去って覚醒する。

舞囃子：羽衣 (はころも)

漁夫に羽衣を奪われた天女が、返された衣を身に纏い、返礼の約束に天女の舞を舞う。月宮殿に劣らぬ三保の松原の美しさを讃え、月に祈りを捧げると、天上から音楽が鳴り響き序之舞となる。さらに舞うと天上の寿福が地上に降り注ぎ、天女は富士を指して飛んでいった。

狂言：雁大名 (がんだいみょう)

京都で訴訟事が叶いめでたく帰郷の運びとなった田舎大名は、在京中お世話になった人々に馳走をする事を思い立ち、太郎冠者に肴物を買ってくるよう命じる。太郎冠者は早速市場へ行き、初雁を求めようとするが、馴染み

の店ではないためツケでは売ってもらえず、一旦屋敷へ戻り主人に代金を請求したものの、長年の滞在で一文無し。そこで思いついた太郎冠者の秘策とは：

仕舞：船辨慶 (ふなべんけい) キリ

平知盛の怨霊は、義経を海底に沈めようと長刀で襲いかかるが、弁慶が数珠をもみ五大尊明王に祈る力によって、調伏されて彼方に消えた。あとには白波だけが残っていた。

能：天鼓 (てんこ)

舞台は唐土後漢、紀元一世紀頃の中国のお話。勅使(ワキ)が天の鼓を打ち鳴らす少年天鼓の事を物語る。帝は鼓を望んで召し上げようとするが、天鼓はこれを拒み、捕えられて呂水に沈められ、一方、鼓は誰が打つても音が鳴らないという。父の王伯(前シテ)なら鳴るのではないかとこの召喚に向かった勅使は、悲しみに沈む王伯を宥めすかして宮殿に連れて来る。その壮麗さに身の竦む王伯だったが、勅使に重ねて促され、渾身の一撥をふるう。妙なる響きが広がり、親子恩愛の不思議さに、帝は涙を浮かべ、管弦講の甲いを従者(間狂言)に命じて王伯を家へ帰した。(中人)

呂水の堤に鼓を据えて、音楽を奏して供養を始めると、天鼓の霊(後シテ)が現れる。甲いに感謝して鼓を打ち鳴らし、自らも喜びの樂を舞い、水に戯れ袖を翻しつつ夜明けと共に消えていく。

前場における老人王伯の悲壮感、一転して後場では少年天鼓の若々しさと喜び。その対比の妙と、両者を結び付ける「天の鼓」という神秘的な存在が、この曲を魅惑的に彩る。

第4回例会

2020. 12.19 (土) PM1:00 (開場 12:00)

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9 ☎ 03-3491-8813

JR・東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分 香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※ 駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



入場料

会員券(年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円 1回券(当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先：各出演能楽師または縁泉会まで

津村 禮次郎 TEL 042-386-2131

FAX 042-386-2132

墨 敬子 TEL&FAX 045-544-6787

新井 麻衣子 TEL&FAX 04-2946-8389

令和2年第2回例会延期公演

令和3年2月11日(木・祝)

能… 龍太鼓 Routaiko …………… 杉澤 陽子
能… 鶴 白頭 Nue shirogashira …………… 鈴木 啓吾